



日時 : 2020年1月16日(水) 天候曇り時々晴れ

集合 : 相鉄線鶴ヶ峰駅 10:00

コース: 日蓮宗妙福寺→正観寺→旧王子街道標識→杉山神社→芝生追分→浅間神社→神奈川宿、関門跡  
→料亭田中屋→本覚寺→普門須崎大神→神奈川湊、台場公園

20,000歩 14km (伊藤 自宅含め26,000歩)

参加者: 森山L・吉越SL・高橋友・吉岡・鈴木孝・平石・神谷・伊藤真 合計8名

相鉄線鶴ヶ峰駅

森山L、吉越SLお迎え、地図入り資料渡し



鶴ヶ峰駅から帷子川親水緑道の傍を通り



帷子川（かたびらがわ）を渡る



マンション前の公園で森山Lの説明



吉越SLのストレッチ



鶴舞橋の由来

鶴ヶ峰という地名は、「鶴舞い田」よりきたものだという。田んぼで開かれた中央には、広さ約六百坪、高さが二米位の舟型をした島があり、畑地になっていた。これらの田畑を擁する帷子川は、蛇のように曲がりくねっていた。国道十六号よりの土手には、見上げるような樹木が生い茂っていた。そして、川は流れ込む清水でいつも満ち満ちていたのである。

この田んぼに多数のツルが飛来して生息していたという。野物のサワガニ、ザリガニ、ドジョウなどを腹一杯詰め込んだツルは、現在の国道十六号付近の高い峠で休息をとる。腹が減ると二回でも三回でも、餌をあさって田んぼに舞い降りたという。

このように、ツルが舞った田んぼが鶴舞い田であり、ツルが峠で休息したところから「鶴ヶ峰」となったわけである。

鶴舞橋 橋名の由来

「ふるさと鶴ヶ峰」より

愛宕を通る



白根村道橋改修碑



この碑は、江戸中期、八王子往還白根村地先の難路改修の由来を記したものです。江戸の任人櫻井茂左衛門が供養のため、田地を買収し、破損した橋を改修し、往來の難儀を救ったとあります。元文四年（一七三九）十一月に建立されたものです。

八王子往還は、芝生（現在の西区浅間町）で東海道から分岐し、町田、八王子へ通じている街道です。

平成五年三月

横浜市史学委員会

白根村道橋改修碑

浜市地域史跡  
しらねむらみちほしかいしゅうひ

平成四年十一月一日 登録

鶴ヶ峰から帷子川を渡り八王子街道を歩く。相鉄線西谷駅前を通る。 — 線道路 — 八王子街道



赤い鳥居の神社を見ながら

相鉄線西谷駅

昔の絹織りの名残中2階住宅



梅の木



妙福寺



妙福寺 日蓮宗 10:55



開山は随泉院日意。延宝2年4月15日(1674)寂。開基は第4世長昌院日解。元禄6年5月

21日(1693)寂。厚木妙純寺の末寺。元禄の頃、第6世養泉院日脱(元禄12年2月16日(1699)寂)が住して堂宇を再興した。山上に堂宇があったのを第37世立法院日壽(明治34年10月13日(1901)寂)の代の明治10年12月本堂、同17年庫裡を現山門内側に再建した。その後42世取要院日芳(平成5年5月7日(1993)寂)が山門を再建し、本堂(昭和47年落成)、客殿、庫裡等を以前堂宇があった現在の地に再興した。

山門の脇左側に題目碑(宝塔)が在る。第16世啓運院日量(享保18年10月18日(1733)寂)が、享保10年8月16日に建立したもので、本堂に向かって右側の山の中腹に在ったものを嘉永2年2月(1849)第33世日忍が今の地に移した。高さ9尺余りのみごとなものである。

また、現住職第43世泰然院日暁が、山門右側に立教開宗750年を慶讃して寺号碑を建立した。境内地約1万坪。



正門



休憩所の池給水&トイレ休憩



奥は本堂と墓地

本堂



正観寺 曹洞宗

曹洞宗寺院の正観寺は、補陀山と号します。正観寺は、小田原北條氏の遺臣中田藤左衛門（寛永12年1636年寂）が、亡父加賀守菩提の為文禄3年（1594）に創建、雲松院十一世龍山遵朔大和尚を請じて開山したといひます。当寺の本尊聖観世音菩薩立像は、中田藤左衛門の父中田加賀守の守本尊で、旧小机領三十三所子歳観音霊場5番です。



当山鎮護豊川稲荷解説  
このお稲荷様は昭和四十一年五月十五日、中田信作氏が寄進、中田仁太郎氏が改修し、愛知県豊川稲荷を勧請したものであるが、近年、破損が甚だしく、平成二十年四月、弁天講と写経会の協力を得て新しく作り替えたものである。本地は不動明王であり、不心得を怒らしめ信心篤き人をいつも守つて下さる有難い仏様である。  
一、財運豊かにして、高位の人となる  
一、病氣平癒  
一、心願成就  
一、良い人間関係を作る  
一、その他諸々の願いをきいて下さる  
平成二十年四月一日  
補陀山 正観寺  
普請 石材施工 福沢石材店  
大工 二宮 速夫  
樺材寄進 清水 卓  
香板寄進 ナンシン工芸



本堂



正式社史の碑



11:00旧八王子道到着 (PI集合写真)



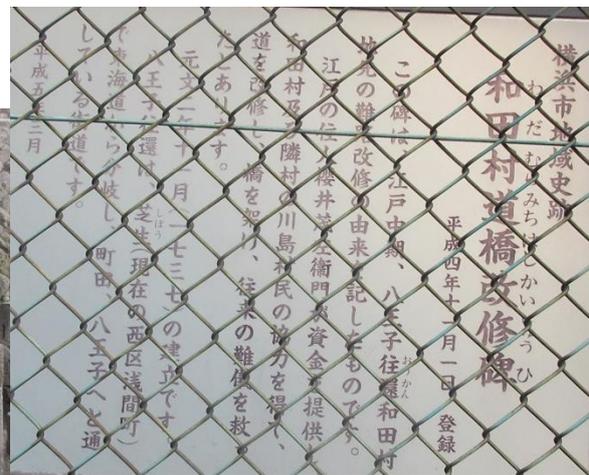
国道17号線陸橋を東川島歩道橋で渡る



杉山神社



和田村道橋改修碑



神明公園で昼食

12:00~12:30



ここにはトイレなし



宮田二丁目を通る

延命地藏尊堂



快調の先導森山L

衆尊奉行

追分



八王子道は、ここより帷子川にそって伸び、町田・八王子へと続く道で、安政六年（一八五九年）の横浜開港以後は八王子方面から横浜へと絹が運ばれるようになり、「絹の道」と呼ばれています。



刻まれている文字：追分は一般に道の分岐点を意味しますが、東海道と八王子が分かれる場所です。

追分の意味

もとは「牛馬を追い、分ける場所」を意味した[要出典]が、そこから街道の分岐点も意味するようになり、甲州街道と青梅街道の分岐である新宿追分や、中山道と北国街道の分岐である信濃追分など、各地に地名として残っている。また、そこから派生して、こうした地名を冠した日本の民謡の一種（追分節）の略称として用いられることもある。（追分節の項を参照）

追分分岐点で集合写真



浅間神社（せんげんじんじや） 富士信仰に基づいて富士山を神格化した浅間大神（浅間神）または浅間神を記紀神話に現れる木花之佐久夜毘売命（このはなのさくやびめのみこと）と見てこれを祀る神社である。

承暦4年（1080年）、源頼朝が浅間神社を勧請して造営されたと伝えられる。当地は袖ヶ浦（入江）に面した帷子川の河口港として栄え、江戸時代は東海道五十三次の神奈川宿と程ヶ谷宿の間の宿であった。幕末の横浜開港の際には、当社門前より横浜（現・関内）に到る「横浜道」が整備された。関東大震災や太平洋戦争で社殿は焼失し、現在の社殿は昭和戦後になって再興されたものである。「芝生（しばう）」は縁起が悪いため、この神社にちなんで浅間町と改名された。主祭神木花咲耶姫命



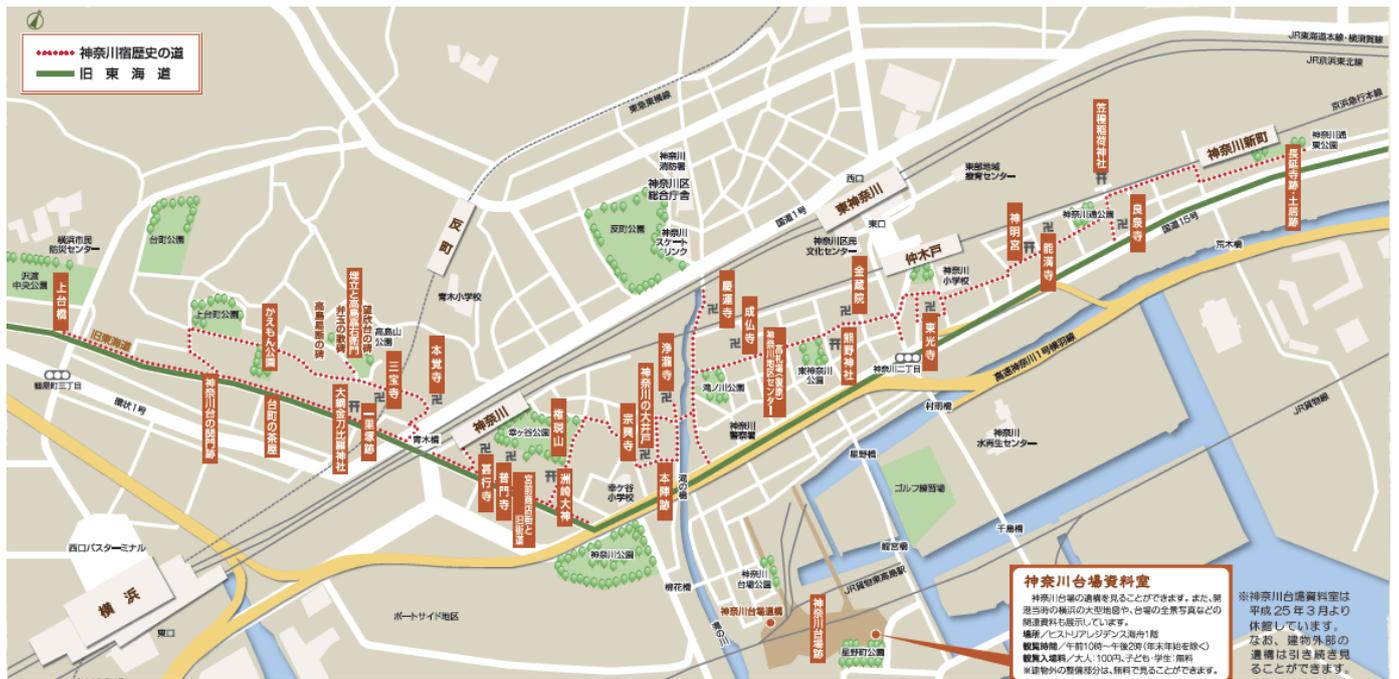
神奈川台の関門跡へ行く

国道から脇道へ入る

旧絹生産農家広い敷地



横浜駅・神奈川駅・東神奈川駅・仲木戸駅



緩やかな坂道を登る (海拔 5 m → 9 m)

神奈川台関門跡 (この上には外人住宅があった)



現在位置の地図 神奈川宿歴史の道





大綱金毘羅神社と一里塚



本覚寺への登り道



## 歴史の街 「神奈川宿」



### 神奈川宿

神奈川宿は日本橋を出て三番目の宿場町です。現在の台町あたりは、かつて神奈川湊を見おろす景勝の地でした。この神奈川が一躍有名になったのは、安政元年(1854年)の神奈川条約締結の舞台となってからです。その四年後に結ばれた日米通商条約では神奈川が開港場と決められていましたが、後に横浜に変更されました。



### 田中家

神奈川宿にぎわった当時から続く唯一の料亭が、文久三年(1863年)創業の田中家です。田中家の前身の旅籠「さくらや」は安藤広重の「東海道五十三次」にも描かれた由緒正しき店名です。高杉晋作やハリスなども訪れました。

### 坂本龍馬の妻「おりょう」

「おりょう」が田中家で働き始めたのは明治7年。勝海舟の紹介で働いていたと伝えられています。英語が話せ、月琴も弾くことができた「おりょう」は、外国人の接待に重宝されていました。

明治・大正時代の田中家



「金川砂子 東台下飯綱社」国文学研究資料館所蔵

◎ **大綱金刀比羅神社と一里塚**

この神社は、社伝によると平安末期の創立で、もと飯綱社といわれ、今の境内後方の山上にあった。その後、現在の地へ移り、さらに琴平社を合祀して、大綱金刀比羅神社となった。かつて眼下に広がっていた神奈川湊に出入する船乗り達から深く崇められ、大天狗の伝説でも知られている。

また、江戸時代には、神社前の街道両脇に一里塚が置かれていた。この塚は、日本橋より七つ目あたり、土盛の上に樹が植えられた大きなものであった。

**本覚寺 曹洞宗**

もと臨濟宗で、1226年に宗祖栄西により創建されたと伝わる。現在の高島台から幸ヶ谷公園（権現山）にかけて続いていた丘の上であり、東海道と神奈川湊を見下ろす交通の要衝にあることから、戦国時代には隣接して権現山城・青木城が造られた。1510年、一帯が上杉氏と上田政盛との権現山合戦の戦場となったため荒廃したが、1532年に曹洞宗の寺として再興された。江戸時代になると周辺は神奈川宿として栄えた。幕末の1859年7月1日（旧暦6月2日）に横浜が開港、これに伴って7月4日（旧暦6月5日）、横浜港が一望できることから、初めての在横浜アメリカ領事館が本覚寺に置かれ、関内の外国人居留地に移る1863年まで当地に駐在していた<sup>[1]</sup>。1862年には薩摩藩士が無礼を働いたイギリス人を殺傷した生麦事件が発生しており、負傷者のウッドソープ・クラークとウィリアム・マーシャルが本覚寺のアメリカ領事館へ逃げ込み治療を受けた。開国当時山門はペンキで白く塗装され、この山門は後も震災・戦災を免れて現存している。東側の権現山は神奈川台場の建設のため削られた。さらに明治時代の鉄道建設により寺の東側に切通しが作られ、この際に東海道も分断されたため、門前近くに青木橋が架けられた。さらに第二京浜建設の際にも寺域が削られた。

急坂を上ります。

アメリカ領事館跡碑

山門



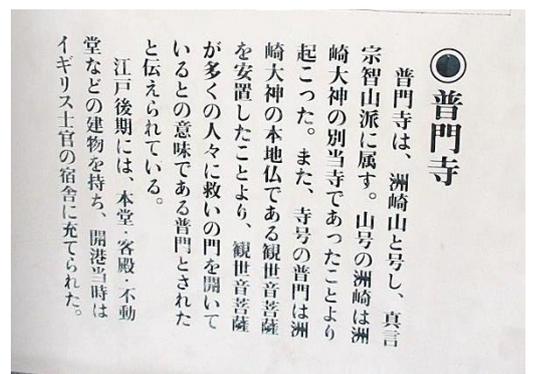
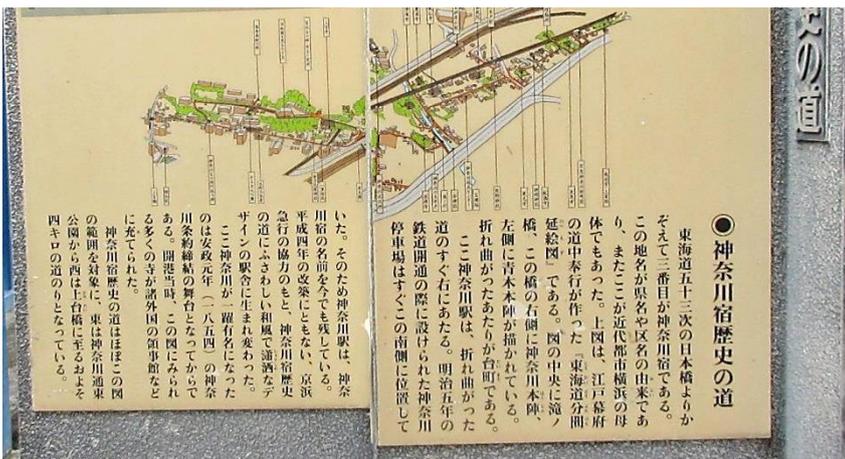
本殿

横寝仏像



神奈川宿歴史の道 看板

普門寺 (元イギリス士官宿舎)



普門須崎大神



本宮



料亭 濱久



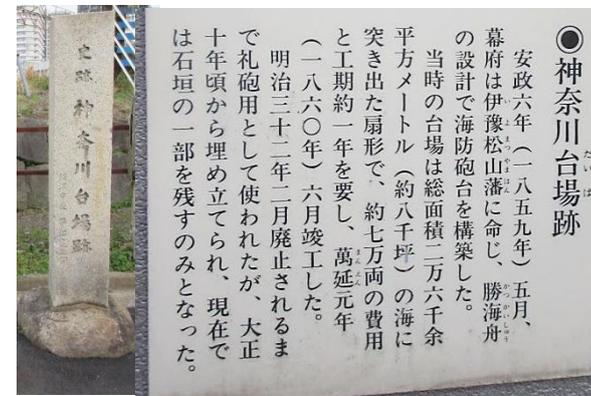
滝の川を渡る



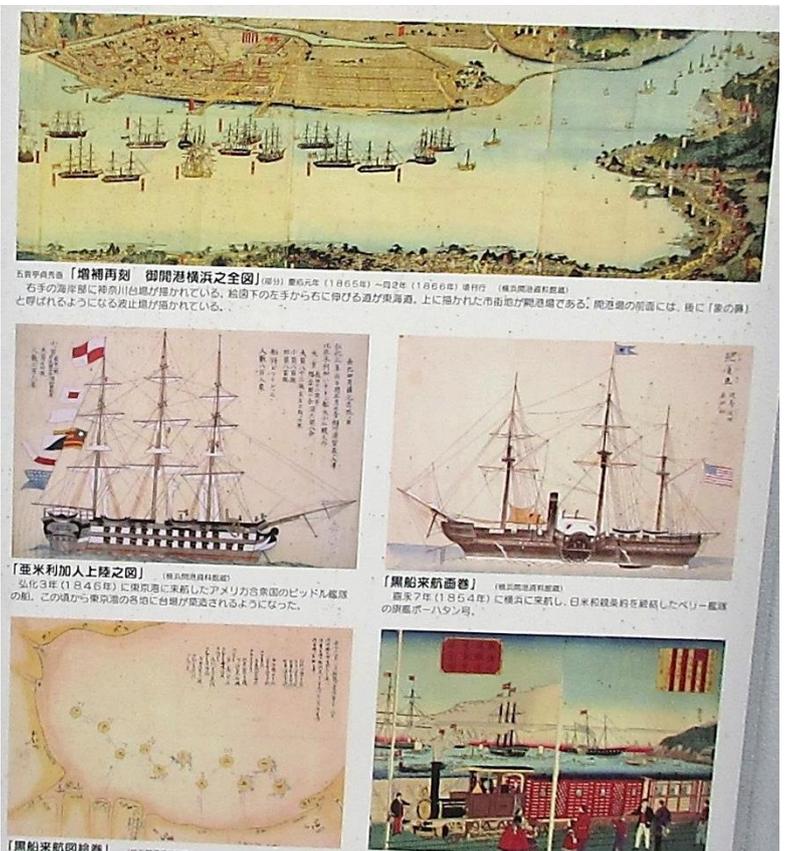
新日本連盟事務所、移転後整理中 2月1日(土) 国際交流会開催



神奈川台場跡



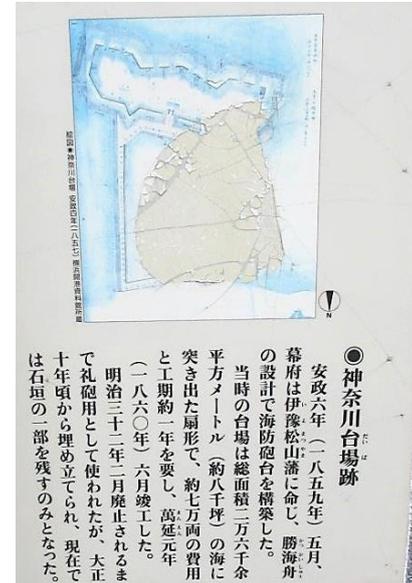
●神奈川台場跡  
 安政六年(一八五九年)五月、幕府は伊豫松山藩に命じ、勝海舟の設計で海防砲台を構築した。当時の台場は総面積二万六千余平方メートル(約八千坪)の海に突き出た扇形で、約七万両の費用と工期約一年を要し、萬延元年(一八六〇年)六月竣工した。明治三十二年二月廃止されるまで礼砲用として使われたが、大正十年頃から埋め立てられ、現在では石垣の一部を残すのみとなった。



五百年前西巻 【増補再刻 御開港横浜之全図】(原刊) 慶応元年(1865年)一四二巻(1866年) 徳川幕府(横浜開港資料館蔵)  
 右手の海岸部に神奈川台場が描かれている。右図下の左手から右に伸びる道が東海道。上に描かれた市街地が開港場である。開港場の前面には、後に「象の鼻」と呼ばれるようになる波止場が描かれている。

【亞米利加人上陸之図】(横浜開港資料館蔵)  
 文化3年(1846年)に東京湾に来航したアメリカ合衆国のビッドル艦隊の船。この頃から東京湾の各地に台場が築造されるようになった。

【黒船来航西巻】(横浜開港資料館蔵)  
 嘉永7年(1854年)に横浜に来航し、日米和親条約を締結したペリー艦隊の旗艦「アトランティック」。



●神奈川台場跡  
 安政六年(一八五九年)五月、幕府は伊豫松山藩に命じ、勝海舟の設計で海防砲台を構築した。当時の台場は総面積二万六千余平方メートル(約八千坪)の海に突き出た扇形で、約七万両の費用と工期約一年を要し、萬延元年(一八六〇年)六月竣工した。明治三十二年二月廃止されるまで礼砲用として使われたが、大正十年頃から埋め立てられ、現在では石垣の一部を残すのみとなった。



東京湾に侵攻してきた船舶に対する防衛を目的として築造された施設。海岸から東京湾に突き出るように埋め立てられ、他の台場には見られない船溜まりという構造を持っていた。総面積は約2万6千平方メートルで、埋立には付近の権現山(神奈川県幸ヶ谷。現在の幸ヶ谷公園付近)の土砂が使われた。砲台を設置していたが実戦に使用されたことはなく、諸外国の貴賓が港に入った際に祝砲を上げていたという<sup>[1]</sup>。施設廃止後の跡地は転用され、現在は JR 貨物 東高島駅の敷地などとして利用されている。神奈川台場は、羽を広げたコウモリのような形をしていることから通称「コウモリ台場」とも呼ばれ、欧州の城などをモデルにして造られたとされる。実際は星形の形状で、この形の台場は「五稜郭」(北海道函館市)の台場など国内に3例しかない貴重な遺構だ。<sup>[2]</sup>

神奈川台場跡で今日のウォーキング終了集合写真 (カメラマン伊藤)



伊藤も証拠写真 (吉越カメラマン)

この後入り江川を眺めながら歩く



## 入江川



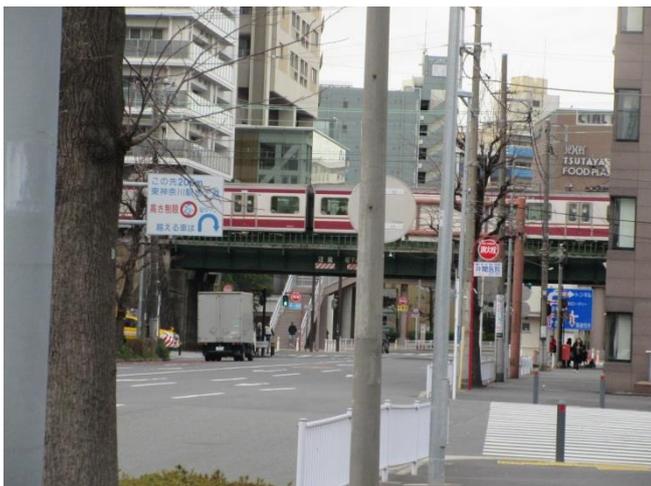
横断歩道橋に登るエレベーターがついている 歩道橋亀の飾り

鶴見駅入口



京急線が見えてきた

仲木戸駅



仲木戸駅は東神奈川駅の向かい側にある。

前のKWC事務所は東神奈川駅で降りて行っていた。歩いてみると地形が判る。学習の為次頁にこの周辺の地図を記載しました。

KWC新事務所周辺地図 神奈川警察署並び「トリークビル3階」



アフターはお馴染み隆昌飯店



絹の道4回整理

絹の道シリーズ2016年1月27日(水)～9月25日(木)今回と同じ4回に分けて実施されました。伊藤も4回参加してレポーターをやりました。絹の道地図上は45kmですが、前回の総歩数は87,000歩 59kmでした。

今回も森山さんからレポーター依頼されて参加しました。

①八王子～多摩境 2019年12月17日(火) 早朝小雨バラついておりカメラを構えることは出来ず不参加。結果は雨は止み申し訳ありませんでした。

②多摩境～町田 2019年12月23日(月)

12名参加 途中バスに乗り8,000歩 6km

③町田～鶴ヶ峰 2020年1月6日(月) 13名参加 後半部に乗り16,000歩 11km

④鶴ヶ峰～神奈川台場公園 2020年1月16日(木) 下見8名参加 20,000歩 14km (本番1月24日(金)は所用があり参加出来ず本日の下見に参加しレポートとします)

編集後記：同じコースを4年ぶり2回歩きました。所々ポイントはレポーターをやっていますので社寺や記念碑は覚えていますが、街歩き交差点は必ず写真を撮り入れるようにしているものの、なかなか覚えられません。今日の終点横浜、新事務所周辺は地図を眺めてみると良く判りました。森山さん下見を入れると16回になりますが、80歳を過ぎて良く頑張られました。改めて厚くお礼申し上げます。今回はイギリスからアンディ夫妻が来られて絹の道に参加され、2月1日(土)国際交流会が新事務所で開催されます。

いつものポケ防止用日記帳「メモと写真」です。失礼な記述や誤記があるかもしれませんが悪くならずお許しの程。引用文はHP他から囲繞しました。